

「将来の夢」 大学 医学部 看護学科 3 学年

私は幼少期、祖父母の家で地域のお年寄りに囲まれて育ちました。病院に行くことを嫌がる高齢者の姿を身近に見て、「自分が医療の知識を持って訪問すれば、その人が安心して最後までその人らしく生活できるのではないか」と考えるようになりました。さらに、祖父が亡くなる当日に会えず後悔した経験や、延命治療をめぐって家族が葛藤する姿を見たことが、私の目指す看護師像を築くきっかけとなりました。

現在、大学での看護学習や基礎実習を通して、患者さんや家族が抱える思いに触れる中で、「その人らしさを尊重する看護」の重要性を実感しています。特に心に残ったのは、ドキュメンタリー番組で拝見した人生の最終段階にある方やそのご家族の姿です。自分の経験とも重なり、苦しみを少しでも和らげたい、家族が後悔なく見送れるように支えたいという思いから、私は将来的に緩和ケア認定看護師を目指したいと考えています。

まずは日本で経験を積み、緊急時のスキルを磨き、患者さんと家族に寄り添う姿勢を学びたいと思います。その後は海外の医療現場にも視野を広げ、特に医療と福祉のつながりについて学びを深めながら、再び日本の地域医療に還元したいと考えています。自分が看護師としてできること追求し、地域の一員として自然に人々を支えられる存在になりたいです。

しかし、学びを続ける上で教科書や専門書、研修参加費などは大きな負担となっています。現在、貴会から奨学金を受けていることで経済的な不安が減り、学業に一層専念できています。今後も学んだことを社会に還元する力に変えていきたいと考えています。

私は、人々に安心を届けられる看護師を目指して努力を惜しまず成長していきたいと思います。そして、奨学金のご支援に応えられるように、社会に貢献できる看護師へと精進していきます。